

東京歯科大学同窓会会報

東京都千代田区神田
三崎町一ノ七

発行所

東京歯科大学同窓会

編集人 関根永滋
発行所 電話東京(301)3421(代)

溝上喜久男教授

藍綬褒章授与さる

母校クラブ室で祝賀会

本学副学長溝上喜久男教授は、去
る五月十日、首相官邸において荒木
文部大臣より名譽ある藍綬褒章を授
領、引つづいて宮中に参内、天皇、
学教授として第二人目であり、その

慶びは、ひとり教授御自身のもの
でなく、本学の誇りでもあります。
同窓会としては、この慶事を会員
各位と共に祝うべく、早速去る十三
日午後七時より母校新館クラブ室に
て、溝上教授藍綬褒章受章祝賀会
を開催致しました。福島学長をはじめ
歯科界同窓約百名近くが参集、ク
ラブ室せましばかり祝賀の宴をひ
ろげ、学長、榎本同窓会名誉会頭、入
江東京都歯科医師会長、五十嵐日本
歯科医師会理事、平林父兄会長、級
友春原氏、矢崎同窓会長の諸同窓か
ら祝詞があり、更に同窓会から受章
記念として電気スタンド一基が矢崎
会長から手渡された。これらに対し

溝上教授は終始満面微笑をうかべら
れ、今回の受賞はこれ総て皆様の御
力によってなされたもので、今日の
感激を今後の活動源として母校に尽
したい旨の謝辞挨拶を述べられた。
最後に溝上教授の万才三唱、午後十
時近く宴は閉じられた。
尚、溝上教授の受賞の内容は次の
「褒章の記」によって明確にうかが
われるものと思う。本年一月二十二
日には、上田、向井両氏の「藍綬褒
章受章祝賀会」を開催してより半年
後に、再びかかる祝賀の宴を催しえ
たことは、誠に慶びにたえない。

褒章の記

溝上喜久男
早くから教育に専念し東京歯
科大学教授並びに病院長とし
て現在に至る間終始よく歯科
医学の指導に尽して子弟の育
成に努めた。教育の振興に寄
与し、もって公衆の利益を興し
た成績は誠に著明である。よ
って褒章条例により藍綬褒章
を賜うってその善行を表彰せ
られた。

昭和三十六年五月五日
内閣総理大臣 池田 勇人
内閣総理大臣官房
賞勲部長 吉田 威雄
第四五七七号

写真説明

(上) 藍綬褒章
と褒章の記
(下) 祝賀会で
謝辞を述べ
られる溝上
教授



褒章の記

溝上喜久男

早くから教育に専念し東京歯科
大学教授並びに病院長として
現在に至る間終始よく歯科医学
の指導に尽して子弟の育成に
努めた。教育の振興に寄与し、
もって公衆の利益を興した。
従って褒章条例により藍綬褒章
を授けられた。



御礼

今回母校溝上喜久男教授の藍綬褒章受賞祝賀会を開
催致しましたところ、何かと御多忙中にもかかわらず
せず、多数会員諸氏の御参会をえまして、誠に有難く
厚く御礼申し上げます。

御蔭さまで、盛大な祝賀の会を行いましたことを
主催者と致しまして深く慶ぶと共に、御参会の各位に
厚く感謝致しておる次第であります。

昭和三十六年六月二十日

東京歯科大学同窓会長

矢崎 正方

参加会員各位殿

学債について

学校法人東京歯科大学
理事長 石河 幹武
東京歯科大学
学長 福島 秀策

同窓会員各位殿

昨年十月御手許へ書類をもって御願ひ申し上げました本学学債は、爾来逐次御協力を賜わりつつあります。現在左記の通りの成績なので、所期の計画を完遂いたしましたためには、是非共各位の一層の御支援を賜わり度く、茲に更めて御願ひ申し上げます。

記

- 一、学債募集成績(三十五年五月末現在)
 - (一)申込総額 七,七五〇,〇〇〇円(四八八人)
 - (二)既払込総額 六,六〇〇,〇〇〇円(三三一人)
 - (三)初年度利子払額 一、七六六、五五〇円(一、五〇〇坪)
- 二、学債によって行われた事業
 - 1 市川病院敷地買収 三、六六六、五五〇円(一、五〇〇坪)
 - 2 市川病院仮診療室其他増改築六件 一、五〇〇、〇〇〇円
 - 増築 二四九・二六坪
 - 改築 一八五坪
- 三、当初計画工事の内、現在予定されている工事
 - 1 口腔衛生学教室新設とそれに伴う諸増改築工事 九、五〇〇、〇〇〇円
 - (解剖別館にある小動物飼育室を本館屋上に新築移転し、その後を研究室に充当)
 - 2 市川病院旧病棟取壊工事 五〇〇、〇〇〇円
- 四、今後の募集について
 - 1 第一次分、即ち昭和三十九年末償還の六千万円は既に応募済につき
 - 第二次分、即ち昭和四十年五月末日償還の七千万円
 - 第三次分、即ち昭和四十一年五月末日償還の七千万円
 - を募集中であります。利子は御払込の第一年月は、御払込の日より五月三十一日までの分を日割計算いたします。
 - 2 募集には期限をつけておりませんが、仕事をすすめていく関係上、なるべく早目に御応募願ひたいと思っております。
 - 3 同窓会の支部を通じて御願ひする事はありますが、割当等は考慮しておりませんので、各位におかれては、御自由な御意志によって御応募願ひます。
 - 4 第二次と第三次の限界は、第二次の七千万円が満了したときと致します。
 - 五、市川病院改築今後の計画に就て既に地質の検査も済み、敷地其他準備条件処理の数々も逐次すすんでおりますので、愈々旧病棟の取壊しを始めることになりました。工事は或る程度資金の目鼻がつかい次第着手したいと考えておりますので、何分の御支援を重ねて御願ひ申し上げます。



副学長就任挨拶

溝上 喜久男

去る三月福島学長は再選就任に当り、新構想のもとに新年度に期し、機構の改革、人事の刷新を行なわれ新たに副学長及び学監の職が置かれた。この異動により、私も東京歯科大学病院長の職を解かれて副学長に任命されました。各部門に於ける新機一転した人事大異動は、本学発展のため意義ある事と誠に喜ばしき次第であります。

顧るに、昭和二十四年花沢先生の後を受けて病院長に就任以来十二年の長期に亘る歲月は、校舎の改造、設備の拡充、大学院の設置、病院の増築或は寄附金募集等があり、本学としては実に悲喜交々多難の秋でありました。在任中大過なく責務を果し得ましたことは、これ偏に学長始め学内教職員並びに同窓各位御協力御支援の賜物と衷心より感謝に堪えない次第であります。

副学長就任所感

斎藤 久



幹事の方から母校の此度の人事について私が副学長に就任した感と何か、抱負を述べたい。私の感想もなし抱負もありませんので、無味乾燥なお答えしか出来ませんと云う御了解のもとに一筆記します。

務になったので、この点元の矯正部長より一層責任が重くなりました。副学長のもう一つの役目は、学長の仕事がある時にはこれに代って仕事をやるわけですが、現況において学長の御承知の通りであります。水道橋の隣で感謝のうちに一応整いましたが、只今尚、市川病院の改築、奥村先生を記念しての口腔衛生学教室の建設、アイソトープ研究室の新設又は衛生士学校の増設等々近年にない忙しさであるので、学長は体が幾つあつても足りない程の事業を抱えておられるのであるから、この忙しい期間中は特に待機の姿勢でいるわけでありませぬ。これも三年か四年後にはこれ等の仕事が成る事になっております。私が大正三年、今から四七年前に学生として始めて臨床に出て、患者を治療したその時の状況と、今日の臨床状況とをあれこれと比較して思い出しで見ると、全く感無量という事になります。今の保存、補綴、外科、矯正は半世紀前には名前も変っているし、内容も変っている事も多いです。学問の事だからこれでよいという時期はない。それどころか、これからは本当の研究時代に突入するんじゃないでしょうか。歯科学が科学の軌道に乗り始めた今日、これから教育内容と設備充実とが威力を発揮して来るのではないのでしょうか。まだまだ科学的に解らないことを沢山、母校の学問の発展が如何に歯科界に必要であるかを痛切に感ずる次第であります。同窓会員の皆様、御後援があったればこそ母校の過去もあり、現在も、そして将来も亦益々発展していくことと確信しております。自分が今日となって、過ぎし半世紀を回顧して非常に力強く、且つ楽しく思っている次第です。

再任に当って

福島秀策



再び学長の職につくことになりました。私としては

決して望んでまたこの重職についたわけではありません。我々としては至上命令ともいべき教授会の決議には従わなければならないので、敢て勇をこして御引受けした次第であります。幸に学内外の御支持御鞭撻によって、前任期中、大した過もなく過し得ました事を深く感謝するとともに、今回の就任に当りまして、倍旧の御支援を願って止まない次第で御座います。

前任期中には大学院建設という本学の一段階を画する大仕事がありました。もともと私はこの仕事(建築工事)を御手伝いするために母校に選ったのであって、学長の職につきう等とは夢にも考えていなかったものであります。が、運命と申しましようか今日までの経過を見るにいたった次第であります。

さて今回の任期中には、かねて数年前から計画中であった市川病院の増改築の着手並に完成を先ず心がけているのであります。本学の施設中最も貧弱な同病院の改築及び内容の充実によって歯学教育の完璧を期したいと思っております。

尚、水道橋施設中に予定されております故奥村先生の記念教室他、アイソトープ研究室等々の新設など、日進月歩の科学の進歩におくれのない為めには、幾多の設備が要求せられているのであります。勿論これらの事総てが今回の任期中に完成されると思いませんが、少しでもこれらの目標に近づきたいと心を砕いている次第であります。

一介の漂流人に等しかった私が救われて、光輝ある母校に還り得たという事を思う時、ひしひしと胸を打つものがあります。ましてや今日再び重職につくということは分に過ぎたる次第と、暮夜静思にたえざる時があるのであります。

どうか皆さんの御鞭撻によって、この期も過し得ます様切に願って止みません。

× × × × ×

学監就任に際して

杉山不二



日夜劇務に追われ、休養の暇もないほどにお忙しい福島学長を少

してもおたすけできればと思つて、私は学監という職につくことをお引き受けしました。さて、学監とは一体なにをする役柄かういうと、教務を含めて学務一切、また人事の処理という面で、学長を補佐するのがその主な職務となっております。私は病院の副院長、歯科衛生士学校の校長をやめさせて頂きましたが、まだ病院と縁が切れたわけではなく、依然として保存の一員であり、講義も受け持っておりますので、学監をお引き受けしたものの、今のところ、中途半端な仕事しかできません、いささか苦慮しているところです。

東京歯科大学は、同窓各位の御支援と理事者の理解のもと、学長は

夏期講習会

前号において募集しました本年度母校並びに同窓会共催の夏期講習会受講申込は、六月末日迄であります。募集人員、科目及びその講習内容(日程)等は既報の如くであります。尚、補綴学及び矯正学への御申込みの各位には別に直接細目を御連絡致し、万全の準備のもとに、充分な講習の実をあげる予定であります。(日程、科目等は第七十九号参照)

め内教職員全体の努力によって、発展に発展を重ね、現在では、市川病院、進学課程を含めて、有給勤務者が四百名を越すという大世帯になりました。そして、今日まで、これ

東京歯科大学病院院長に就任して

大井清詞



昭和三十六年四月一日附で私は本学病院院長を命ぜられました。

誠身に余る光栄であります。この重責を満足に果し得るや否やを心配しているのが本心で御座います。本学は創立以来已に七十年の歴史を有し、諸先輩のなみなみならぬ御尽力により、今日の発展を見たわけでありまして、同窓各位におかれてもさぞかし御満足のことと存じます。大学になってからもう十五年にもなります。大学院が設置されてから満三年を経過致しました。来年三月には大学院の卒業生が出来ます。私は本学に勤務してからもう三十八年余にもなり、昨年還暦を迎えました。思えば夢のようでもあります。お蔭で健康に恵まれておりますので、微力ながら一層の努力を致し度いと思っております。

本学の病院は、現在五部制となっており、副院長兼補綴部長、北村勝衛教授、保存部長、関根永滋教授、外科部長、長尾喜景教授、矯正部長、山本義茂教授、放射線部長、三崎鈿郎教授各位がそれぞれの専門に中心となり、学生の指導教育に当っております。毎週金曜日には部長会を開き、学生の指導方針並びに病院の運営を協議して万全を期するとともに月二回臨床協議会を開き、病院スタッフとの連絡を密にするよう努めております。何事をするにも、お互の人格を尊重し、協力一致することが大切であることを心得て精進致し度いと心掛けておりますが、同窓各位の御支援がなくてはその目的を達し得ない次第で御座います。何卒倍旧の御鞭撻を賜りますよう御願いたします。

× × × × ×

母校だより

◇ 母校来訪の三氏に名誉講師の称号を贈る

さきごろ母校を訪問された左記の三氏に対し、去る五月十五日の全体教授会において名誉講師の称号を贈ることが可決された。すなわち称号を贈られた方々は、西独ザールランド大学K・フイツシャー学長、スエーデン・マルメ歯科大学グスタフゾン教授及び米歯科材料研究所J・C・パップエンバーガー博士の三氏である。

なお、この他ボン大学のG・コルクハウス歯学部長にも既に名誉講師の称号が贈られている。

◇ 国際ロータリークラブ歯科部会 母校にて協議会開催

五月二十九日、国際ロータリークラブ世界大会の職業別歯科部会協議会は、堀江健一名誉教授を委員長として、日本最古の歯科教育機関である母校第一講堂で開催された。国内外会員多数が参集、国際的運営のもと議事が進行された。終つて中央ホールで懇親の宴を催すと共に、母校諸教室、診療室の参観が行われた。

◇ 第一五四回東京歯科大学学会開催

六月十七日午後一時から、第一五四回東京歯科大学学会は、母校第一及び第二会場に別れて五十三題の演題について発表が行なわれ、多数の会員が来会した。

◇ 第二十九回歯科医師国家試験の合格発表

去る四月施行された第二十九回歯科医師国家試験の結果は、五月二十九日厚生省において総括審議が行なわれ、翌三十日発表されたが、母校本年度卒業生は一二六名が合格した。

◇ 本年度父兄会総会開催

五月二十五日午後二時より母校に於て本年度父兄会総会が開催され、

終了後各学年主任と父兄との面接が行なわれた。

◇ 人事

休職 青木英夫助手(補綴) 六・一
アメリカ、バッファロー大学
留学のため
副手採用取消 根本良一(生理) 辞退
加藤克之(口外)
長谷川孝義(衛生)
大学院入学のため
第二別科採用(五・一)
千葉英輔(市川病院歯科)

志村起氏逝去

元東京歯科大学解剖学教室介補 志村 起氏は、去る五月三十一日老衰のため死去せられた。享年八十四才。

いまでもなく志村氏は大正十三年母校に就職されて以後、昭和三年からは解剖学教室において介補として、同三十二年まで勤務された。

同氏は解剖標本作製には特有の技能を有しておられ、現解剖学教室保存の標本で氏の手になるものが多く、特に血管系へセルロイドを注入した美事な標本はあまりにも有名である。

葬儀は六月二十一日文京区表町真珠院にて福島学長初め母校教授及び関係者多数参列のうえ厳粛に行なわれた。謹んで御冥福を祈る。



志村 起 略歴
生年月日 明治十一年十二月六日
本籍 東京都千代田区神田神保町一六二の一
現住所 東京都文京区本郷元町二丁目七番地
明治二十五年三月
東京都中央区築地
文海小学
校卒業
明治三十一年
中野鉄道大隊入營

大正四年 依願免官
大正十三年四月 東京歯科医学専門学校守衛
昭和三年四月 同校解剖学教室勤務
昭和十年六月 同校解剖学教室介補
昭和三十三年三月 同校退職

お願い 岡 治道 岡 先生と東歯大 隈部英雄

中井 武 一郎

現在では、結核のツベルクリン集団検診は常識的になっており、人々は自ら進んで検診を受けて健康保持に努めているが、昭和十年頃迄は、全く結核の集団検診は放置されておつた。日本の各家庭で、結核が一人出ると、感染者が続出して不幸の結果を見たのは少なくない。特に専門学校、大学の学生が罹患して休学、死亡し、卒業後数年にして再起不能になった例は少なくない。

前学長奥村鶴吉先生は、学生の健康管理に常に意を注がれ、昭和の初め頃より、学生が結核の疑があれば東京市療養所(江古田)に岡先生を訪ねさせてレントゲン診査を受けて療養方法の指導を受けさせておりましたが、昭和七年より岡先生に学校において学生に結核の講話を御願ひして啓発につとめられ、昭和十年より学生にツベルクリン集団検診で早期発見、早期治療を企劃され、岡、隈部、太田、相沢の諸先生の御骨折りで、春秋二回に実施せられ、数々の困難があったが、継続されて学生の発病率は減少して休学、死亡率は低下して、誠に悦ぶべき結果を見た。

このツベルクリン集団検診は、東京歯科が世界の元祖で、今日の發達を見たといつても過言でない。

この難事業を達成された岡先生も本年は古稀を迎えられ、現在は国鉄

衛生管理所に顧問として御勤めになつておられるが、東大病理学教授時代には学位論文で御世話になった東歯同窓生も少なくない。隈部先生は岡先生の蔭の人となり、この事業に尽力され、結核予防会の専務理事研究部長として永年御勤務されたが、本年初めに退任され、研究所顧問となり、現在は社会保険審査会委員となり、御活動されておられる。

岡先生には、去る五月二日に門下生により、古稀の祝賀会が盛大に催され、隈部先生には、門下生により今後の御活躍を念願して隈部記念会が設立されたのである。

東京歯科大学同窓会会員中、両先生に御世話になった方々に御願ひ致します。感謝の意味を以つて、両先生に別々に一口金五百円として贈呈致し度く存じますので、御賛同の方は岡先生分、或は隈部先生分として、七月二十日迄に私宛御送金を御願ひして、両先生に離出者氏名を連記して贈呈致し度く存じます。何卒御賛同下さるよう切に御願ひいたします。

東京都目黒区楠ノ木坂一六
電話(宅) 五二二八

学位受領者紹介

主田 忠君



昭和二十八年母校学部卒業。同三十年母校解剖学教室(主任上条教授)に研究生として入

室、同三十三年十月一日鹿児島医科大学教授会(主査大森教授)にて学位(医学)論文通過(昭和三十三年十一月八日文部大臣認可)。謹祝。(東京都出身・江戸川区開業、母校非常勤講師II解剖学) 主論文 日本人顎動脈の解剖学的研究(歯科学報、五十八巻九号附録 昭和三十三年九月)

見明 清君



昭和二十八年母校学部卒業後、母校組織学教室(主任松井教授)に専攻科学生として入

室。同三十四年六月八日慶応義塾大学医学部教授会(主査大森教授)にて学位(医学)論文通過(昭和三十三年七月十三日文部大臣認可)。謹祝(東京都出身・母校助教II組織学) 主論文 發育に伴う歯牙硬組織内へのP及びCaの沈着の変動について(歯科学報、五十九巻一、二、三号、昭和三十四年一、二、三月)

荏原 浩君

昭和二十八年母校学部卒業後、母校保存学教室(主任杉山教授)に専攻科学生として入室。同三十年四月

より、母校衛生学教室(主任上田教授)に移る。同三十四年七月一日慶



應義塾大学医学部教授会(主査原島教授)にて学位(医学)論文通過(昭和三十四年八月六日文部大臣認可)。謹祝。(千葉県出身・千葉県長生郡開業、母校非常勤講師II衛生学)

主論文 鉛中毒に対する感受性と上皮小体機能との関係(産業医学雑誌、一卷二号、昭和三十四年四月)

佐藤 徹一朗君



昭和二十八年母校学部卒業後、母校保存学教室(主任杉山教授)に専攻科学生として入

室。同三十四年十月鳥取大学医学部教授会(主査山田教授)にて学位(医学)論文通過(昭和三十四年十一月三十日文部大臣認可)。謹祝。(東京都出身・母校講師II保存学) 主論文 齒槽膿漏症における外傷性咬合に関する実験的研究(大日本歯科医学会雑誌二巻一号、昭和三十三年六月)

羽賀 通夫君



昭和二十八年母校学部卒業後、母校補綴学教室(主任北村教授)に専攻科学生として入

室。同物理学教室金井昌邦教授の指導のもとに研究に従事。同三十四年十二月一日東京大学医学部教授会(主査上野教授)にて学位(医学)論文通過(昭和三十五年三月二十一日文部大臣認可)。謹祝。(静岡県出身・母校講師II補綴学)

主論文 歯牙における性差の研究(日本法医学雑誌、十三巻五号、昭和三十四年九月)

関根 弘君



昭和二十八年母校学部卒業後、母校補綴学教室(主任北村教授)に専攻科学生として入

室。母校生理学教室(主任伊藤教授)にて研究に従事。同三十五年二月三日神戸医科大学教授会(主査須田教授)にて学位(医学)論文通過(昭和三十五年三月二十二日文部大臣認可)。謹祝。(東京都出身・母校講師II補綴学) 主論文 調音時の下顎運動に関する研究(歯科学報、六十巻十二号、昭和三十五年十二月)

倉繁 準之助君



昭和二十八年母校学部卒業後、母校校口腔外科学教室(主任大井教授)

へ専攻科学生として入室。その後母校生理学教室において伊藤教授指導のもとに研究に従事。同三十五年十二月二十日鹿児島医科大学教授会(主査副島教授)にて

学位(医学)論文通過(昭和三十六年一月十二日文部大臣認可)。謹祝。(鳥取県出身・母校講師II口腔外科学) 主論文 好酸球数の変動からみた口腔内手術(抜歯)の侵襲度(歯科学報、六十巻七号、昭和三十五年七月)

石井 欣一君



昭和二十三年母校卒業。同二十七年七月深田英朗博士の紹介で私の岩垣研究所に入所。私の指導で主として小児歯科を中心とするテーマについて研究を続けた。予て提出中の学位論文は、同三十四年六月八日の慶

大医学部教授会にて草間良男教授主査の下、満場一致通過し、越同年九月十八日付栄ある医学博士の学位記が授与された。新博士は中野区宮三ノ一五に住み、診療所は世田谷区新町一ノ一三一である。茂子夫人との間に三男がある。毎週火木土の研究日には駿河台の岩垣研究所にて研究を続行するといった真摯なる学究者である。慶祝。(倉恒 宏記)

主論文 飢食活動性試験特にスナイダーテストの臨床的応用価値批判(岩垣研究所年報、十三、十四号、昭和三十五年十月)

白川 尚君



君は東京府立十七中を経て昭和二十四年母校を卒業し、厳父

川住吉町二ノ六の医院で診療に従事していられたが、同二十七年春同区

北砂町で独立開業中、私の紹介で母校微生物学教室に入り、米沢和一教授の指導をうけられる事となった。繁栄中の医院を閉鎖し研究に専念する程の熱心家でもある。螢雪の功なり、予て提出中の論文は、同三十五年七月一日の東京女子医大教授会にて平野憲正教授主査の下満場一致通過し、越て八月十三日付栄ある医学博士の学位記が授与された。新博士は三十三才で働き盛り。通子夫人との間に二女あり。現在は厳父の診療所で活躍中。慶祝。(大井清詞記)

田辺 光子君



昭和二十一年首席で東洋女子歯専卒業。同校附属病院の自宅診療所、三越診療所に勤務の傍ら本学松井教授の研究室に通っておられた。同窓で当教室出身の田辺明博士と同三十年結婚し、調布市国領町二二三の自宅で開業されたのを機に夫君との共同研究の都合上、松井教授の諒解を得て当教室に転入された。研究室と二女の母として家庭との間にあって、予て提出中の論文は同三十四年十月二十九日の京都府立医大教授会にて鈴木成美教授主査の下満場一致通過し、越て十二月九日付栄ある医学博士の学位記が授与された。夫妻揃っての医博は当教室出身者では最初である。慶祝。

主論文 飢食活動性に関する細菌学的研究(京都府立医大雑誌、六十巻五号、昭和三十四年十一月)

(米沢和記)

各地同窓会のうらさき

愛知県東三豊徳会支部

緑の風薫る五月二十一日、愛知県に於いては、県下に名高い絶景の泉立公園新城市榎淵公園の「万葉」に於いて、定時総会を開いた。

この日昨夜来の雨は多少残り心配してはいたが、好都合に集合時刻午後二時頃からは、雨もあがり、文字通り香しい新緑に包まれた樹々の間にある会場「万葉」は一際美しい装いで会員を迎えてくれる。会場の窓からの景色、豊川の清流に奇巖を配し遠く近くに新樹の迫る有様、家並のギンシリ建並ぶ街の中の生活に始終する会員夫々に、このときだけでもどんなにか爽快な気分を味ったことだろう。

地元会員高田敦孟君の絶大な会場設営の努力と、心温まる細心の配慮に紙上を借りて多謝する。

満目の緑に座る主かな虚子、こんな句が秘々味える気がした、会は型通り曾田会長の挨拶から始まり、庶務会計の報告、規約の一部改正、丁度役員任期満期となったので、これを計り再任を可決して、全役員留任でめでたく議事終了。引続き、豊橋網太専務池上元春氏の「東南アジア

旅行談」をスライドを用いての愉快なお話を聴講する。今までに随分大勢の方々から、外国旅行のお話を聞いたが矢張夫々に異なる感覚で視察されて帰られるから、興味はつきないものである。予定よりも四十分もおそくなった。大部お腹の方も、何かを要求している。別室に仕度されている懇親会場に移る。

水道橋に育った者のみが味う「家族的」な和かな宴会は、各地のそれに勝るともおとらないもの。キレイドコロの地元新城音頭の手踊もみせて頂き、其処此処に一年ぶりのにぎやかな話の華が咲いて、その間を美妓のお酌。全く「同窓の真髓ここにあり」というべきか。

最後に母校の発展を祈念して、万才、唱で閉会とする。午後七時。

当日参会者は次の通り、(順不同) 曾田真一、西村祐、今泉勝、鈴木信義、岡本保和、羽田野義彦、加藤一郎、岡田門美、鳥居喜一、伊藤寿久、伊藤哲、山本弥市、藤城易都、白井智、太田俊雄、加藤正長、西村秀祐、岩沼孝夫、岡田、高田敦孟、太田正雄、山本一成、鈴木信夫、城所定雄、渡辺貞男、神山英夫、辻村博夫、山本卓、平野裕(彦坂武記)

クラス会便り

鹿鳴会

鹿鳴会々員の皆さん、公私ともに

日々何にかと御多忙なことに存じます。私どももいよいよ本年をもって

卒業二十五周年を迎えることになりました。この記念すべき区切りの年を幸い元気で迎えられる皆さんにお願いは、さぞかし御満足なことでござってこの二十五年間は、私どもにとりましては、元気に溢れた若さにものをいわせて、周囲よりの信頼と自責の念にかられて精進した。苦しくもまた楽しい生涯に二度とない思い出多い期間であったわけでありませぬ。ただ私どもは卒業後間もなく支那軍変に遭い、引き続いて大東亜戦の災禍に巻き込まれ、敗戦の変動期を痛しく過して来ただけに何時の間にか過ぎてしまったという感じがしてなりません。或はこれは私だけかも知れないが。

今日、鹿鳴会々員の皆さんは、所得での開業に、勤務に、確固不拔の地盤、地位を築かれて、また医政の他いろいろな方面における役職につかれて、北は北海道、南は九州に到る各地において、それぞれその方面の重鎮として活躍されておられることは、誠に慶賀の至りに存じます。また会員中には医学博士の学位記を所有する者二十六名の多数をかぞえることは、この間に学会に貢献した証左で、これは本会の誇りでもあります。ところで、二十五年という歳月は、当時生まれた子供が六年制の大学を卒業する年令になる関係もあって、ここ二三年前より母校の入試受験が目立ってまいりました。現在まで三十名の会員各位の御

息、御息女が入学され、既に昨年は宇佐美君、本年は桑名君の御息

が卒業なさっています。羨しくもまた嬉しい限りであります。しかし、これら慶ばしい反面、この二十五年間には、はじめ一六二名ともに学窓を巣立ちした会員のうち三十一名の方々が、或は病魔のため今日をみず、既に鬼籍に入られたことは痛惜に堪えず、深く哀悼の意を表して、会員一同とともにこれら諸君の御冥福をお祈り致したいと思ひます。(合掌)

私も役員一同は、二十五周年の好機を記念する事業として御案内の通り、昨秋十一月十日の鹿鳴会秘会当日には、まず東京、神楽坂の「平庄」において兄弟大懇親会を催し、極

めて盛会でありました。目下は皆さんの御協力の下に、記念アルバム作成に努力致しておりませぬ。現在なおアルバムの申込みをなさらない方、お写真御送付のない方或はアルバム代金未納の方は至急お願い致します。アルバム不要の方でもアルバムを少しでも立派なものにするため御家族お揃いのお写真を是非お送り願ひ度く存じます。

各地から寄せられる皆さんの近影を拝見するにつけ、御家族に閉まれた御満悦な様子のうちにも、流石に二十五年の御苦労が窺われるようであります。

今や私どもは、各自一家の柱として、殊に親として子供の教育完成のため重責があり、これは今後が続くわけでありませぬ。今まではたとえ元氣にまかせて体を無理しても、比較的平穩無事ではありましたが、ようやく五十路の坂に向う今日この頃はさぞかしお互い体の変調を伴いがちのことと思ひますから、この区切りの年を迎えるに当って、よろしく自問自答の上、一層の自愛自重を願って、まずは御家族のため、本会のため、延いては歯科界の発展のために末永が、御健勝で御尽下されんこと切望する次第であります。なお文末ではありますが島宗輝雄君(愛知県名古屋市長区徳川町五の二七)江部柳一君(山形県鶴岡市五日町一〇〇の一)のお二人が永らく御病氣中とのこと最近伺いましたから、本紙をお借りしてお知らせ致します。両君はじめ御家族の方々にはさぞお困りのことと深く御同情を申し上げます。



めて盛会でありました。目下は皆さんの御協力の下に、記念アルバム作成に努力致しておりませぬ。現在なおアルバムの申込みをなさらない方、お写真御送付のない方或はアルバム代金未納の方は至急お願い致します。アルバム不要の方でもアルバムを少しでも立派なものにするため御家族お揃いのお写真を是非お送り願ひ度く存じます。

同ると時に一日も早く御元氣になら
れますようお願い致します。

祝賀会出席者(四十一名)

網助一、佐藤邦重、前田忠藏(北海
道)、岩沼至、高橋八十吉(山形)、
藤井立吾(広島)、横山国蔵(福島)、
市川潔(愛知)、高木重雄(岐阜)、朝
浪惣一、河村三省(静岡)、鈴木義一
吉岡敏雄(新潟)、望月民部(山梨)、
上野昭、竹村善次郎(茨城)、宇佐美
尚宣(神奈川)、平野実、中村虎雄、
茂木正男(千葉)、阿保喜七郎、伊丹
一男、小野武夫、岡本伝、笠井久之
木村吉太郎、桑名真幸、後藤和光、
高木圭二郎、田中安、中村保夫、西
田福七、畠 榮、藤尾木好、文屋賀
州郎、松本正一、松本四郎吉、増田
武夫、武藤十郎、山田有勝、脇屋和
夫 (木村吉太郎記)

燦 志 会

昨年の同窓会(十一月六日)の折
のクラス会には中井先生を囲んで珍
らしい人々が卒業以業始めの人達を
交えて賑やかに催されました。本年
は二十週年を迎えるので盛大な集ま
りにし度いと思っております。会場は
関西にするか関東になるか未だ未定
ですが若しも関西になる様でしたら
今から関西の方達の横の連絡(関西
方面の方で、今迄出席出来なかつた
人達で会場が関西ならば参加出来る
人数、氏名を至急取り纏めて連絡し
て頂き度いものです。その都合を見
計って会場を決めたいと思ひます。
関西の有志の方にお願ひします。
尚先日各種の貴重な品をお土産
として遠来の方にお送りする筈でし

たが之は本年の出席者に持参致し度
いと思ひます。

先日の元氣な顔ぶれを紙上を借り
て全国のクラスの方達に御紹介致し
ます。(高宮・天野・山本・久松・
浜松記)



一 志 会

一志会の皆さん、早いもので、今
年の秋で卒業満十九年になります。
当然のことながら、来年の秋には、
満二十週年の記念祝賀会を盛大に開
催することになるわけですね。一ヶ年
なんか、ぼやぼやしているうちに、
すぐたつてしまうものです。そろそ
ろ今年のうちから準備をしておか
ねばならないと思っております。こ
んな意味で、今年の秋の総会は、祝賀
会の準備会ともなるのではないかと
思ひます。
準備上で最も大切な名簿の整理を
まず始めるつもりです。これがなか

なか大変な仕事です。幹事の方にあ
る名簿も、その後の住所の異動など
判然としなないものもありますので、
とりあえず、今年中にガリ版にでも
してお送りしますから、誤りや、記
載洩れにお気付の方は、お知らせ願
って、完全なものを来年早々作製、
配布したい考えです。よろしく御協
力下さるようお願い致します。

また、開催地や、方法、その他に
ついてもお知恵を拝借したいもので
す。是非「意見などお知らせ下さい」
今年の秋の総会は、東京か、名古屋
あたりではどうだろうかという声も
あります。

なお、昨年の総会で長らく幹事長
をやって下さった見玉君に変わって田
熊君が幹事長をやることになりました。
幹事は、学校にいる鶴養君、上
条君、長谷川君、渡辺君が引続いて
お世話することになりました。一志
会の連絡は、保存学教室の渡辺富士
夫君宛にお願いします。

いとし 会

其の後もお変りなく、御活躍のこ
とと存じます。先般、御連絡致しま
した森本優君の助教授昇任祝いを予
定通り六月十八日、銀座スエヒロに
て開催致しました。参集せるもの三
十三人、中村保夫先生もおいで下さ
り、甚だ盛会でした。
その折、当然のことながら、恒例
の級会のことと話題となり、地方会
員の意見も披露され、一応、今年度
は、東京において、十一月初旬に開
催、詳細は幹事一任ということに決
めました。

めでたし、めでたし。(明業記)

一 期 会

◇鬱陶しい梅雨期に入りましたが、
皆様にはいかが御過ごしでしょうか。
先日、東歯学会(六月十七日)で級
友徳原 晋児及び原 陽兄にお会い
しました。御両人共二三年振り
御元氣な顔をうかがうことができま
した。原兄は、昨年御尊父の御逝去
にもめげず、すっかり元氣に、体格
も立派になられ、群馬県で公私共に
活躍されておられるとのこと
地方の一期生各兄には、御上京の折
是非一期会へ御立寄り下され、近況
等御話し下されれば、甚だ幸です。

六 喜 会

の寂しさをおぼえます。何卒今後も
御元氣で御活躍あらんことを御祈り
申します。
◇今回、東京都社会保険支基金専
任審査員として、母校側から級友倉
繁準之助兄がこの要務にたつさわ
るよう去る六月一月発令されました。
今日の保険問題でいろいろと解釈、
取扱に苦しむケースがあることと思
いますが、そのような時には倉繁兄
に御教え願えるようになりましたの
で一期会としても御同慶にたえませ
ん。どうぞよろしく、今後の御活躍
の程を。(六月二十日見明記)

夏ひらく六月に入って青葉は茂り
あちこちの山開き、プール開きやア
ユの解禁などが話題にされ、農村で
は田植えがまっさかりである。六月
の声をきくと直ちに恒例のムシバ予
防週間が始まり、講演に、口腔診査
に、正しい歯科医学を世間にPRす
るよい機会であり、また我々の義務
であろう。三陸沿岸地方に火魔を送
った烈風は国会内にも吹きまくり、
医療二法、防衛二法、政防法と砂ほ
こりをふりかけている。政治意欲に
乏しかった我々も内外の情勢を冷静
に見つめ、従来の歯科医療という安
定した航路の曲り角にさしかかり、
またそれが破られてゆく危険性に一
考を要するのではあるまいか。
我々六喜会は結成以来四年目をむ
かえるが、他の同期会より出席率が
一段と高いことである。第一回会報は
病理学教室の枝君の熱心な編集によ

り無事発行することができた。会報に對する諸君の意見希望を御知らせ願えれば幸甚であり、ますます充実したものになると思う。

今年度の年次大会を前に、いかにして旧交を短時間内に最大限に温めることができるか、現在考慮中である。これについても諸君の建設的な意見を待ち企画したいと思っている。国際ロータリーよろしく各地区に代表者を撰択し、学内外の交流を深めると同時に、年次大会に地方色をおおいに含めたいと思う。

三年後輩の国家試験の合格噂が、梅雨に似合った校舎に流れている。我々の卒業の時には一年坊主だった彼らである。我々には未来図としてしか考えられなかった宇宙旅行が成ったのであるから、時間の流れを承認せねばならないだろう。新しい医療、教育、政治でのバイオニアとして努力せねばならぬ年令層に、すでに我々は立たされている。是非とも学内外の連絡を緊密に図り、正しい觀念の理解と徹底を図ろう。

八 紫 会

暑くなつて来ましたが、増々お元氣の事と存じお慶び申し上げます。御存知の事とは思いますが、我々の同級生にお目出たい事が有りましたのでお知らせしたいと思います。去る六月十一日午前九時、羽田発日航ジェット機、富士号で、補綴部助手、青木君が渡米いたしました。ニューヨーク州バッファロー大学へ二年間留学するそうです。東歯補綴

の方は休職になりますが、青木君らしくて喜ばしい事と思えます。

まず、先日五月二十七日(土)病院地下のクラブ室で、青木君の歡送をしました。主として旧Aクラスの人で東京及び附近に在住の方が、約二十人集まりました。会費の一部で記念品に当てました。他の方にも御出席頂きました。ありがとうございました。皆さんには連絡出来ませんでした。留学先は左記の通りです。

Dr. Hideo Aoki
Teaching Fellow in Prosthodontics, The Univ. of Buffalo School of dentistry, Buffalo 14, New York, U. S. A.

我々のクラスから続いて海外に発展なさる方の多い事を期待します。次に八紫会の方ですが、昨年会則の作成を決めました。草案が出来ました。更に良く考えて、次の集まりには決定したいと思えます。

九 期 会 (仮称)

國家試験の発表も終り漸く安堵した事と思えます。又運の悪かった人達も秋には大丈夫と思えます。

先日(詳しくは六月十日)木村先生、佐藤先生に立会。て頂き会計(第九期卒業生に關する全ての会計)を監査、承認して頂きました。追って通知が(決算報告の事です)手許に行くとあります。その折、話が出た事がありますのでお知らせします。一、保健診療講習の件
これは同窓会の方で今期卒業生に對し所謂保険診療に對するそのやり

方、心得等を伝授して下さるとの事で後日その通知が行くと思えます。成るべく出られる方は出席した方がよいと思えます。

二、今期卒業生の集りの件
卒業してしまえば仲々会えない状態にある我々が、横のつながりというものを堅くしておいた方が何につけ便利なのではないかと思います。そこでもう既に旧ABC各クラス会がつくられている様ですがその相互の連絡機関或はその総本郷となる機関を作った方がよいのではないかと思います。そこでその段取りを旧クラス委員がやりそれから十一月の学会のあたりに皆さんに集まって貰って発足しようという考えです。如何ですか。

又皆に連絡したい事又は知って貰いたい事等がありましたら、東歯大薬理学教室の伊藤迄お知らせ下さい。この同窓会報を利用出来ますから。

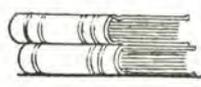
現住所変更

- 真保 弘(17.9)日黒区上目黒四ノ二 二三四
- 北村 悟朗(28)新潟市松浜町 三三三
- 和子
- 橋本喜久次(12)名古屋市中区門前町 七ノ一六 (32)五三三
- 小峰 真(26)千葉市汐見ヶ丘町 三三三 千葉(2)三三三
- 上阪 武嗣(4)三重県三重郡朝日町 小向

逝去會員

- 橋口 近義氏 三・五三 日光市
- 関口 保氏 三・五三 福島県
- 志村 起氏 三・五三 大坂市
- 鈴木 保正氏(6) 三・五三 千葉県
- 岡田藤治郎氏 三・六六 大坂市

図書館だより



第十号

左に列記したものは最近図書館で購入した専門書の一部です。
このリストは逐次掲載されますから、図書目録として御使用になれば御便利かと存じます。

「和書」
日本薬局法 第 日本薬局法 第 井田憲明訳
改正 第一部 純系マウス腫瘍学
医学の日本社 昭和三六

広川書店 昭和三六
田多井吉之介 汎適応症候群
協同医書出版 昭和三四
牧野 昇 金属の試験と測定の実際
(OHM文庫) オーム社 昭和三六
呂成辰 金属表面加工法入門
(OHM文庫) オーム社 昭和三六
森下重等編 日本における寄生虫学
の研究 I 日黒寄生虫館 昭和三六

矢数道明 漢方百話
「洋書」
Hine, M. K. (ed.)
Review of Dentistry, 3rd ed.
(Mosby) 1961 576p.

Lundstrom, A. (ed.)
Introduction to Orthodontics.
(Mc Graw-Hill) 1960 315p.

Bisset, K. A.
The Microbial Flora of the Mouth.
(Thomas) 1960 100p.

Hollinshead, B. S.
The Survey of Dentistry. The final report
(U. S. American Council on Education) 1961 603p.

Schour, I.
Current Advances in Dentistry. - A Manual of the University
of Illinois College of Dentistry Telephone Extension
Program-1949, 1950-1951, 1951-1952, 1952-1953, 1954-1955
(Univ. of Illinois Press) each about 100p.

Gray, H.
Anatomy of the Human Body, 27th ed. (centennial edition)
(Lea & Febiger) 1951 1479p.